

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
01 群馬の特色ある文化の活用と発信																
(1) 群馬交響楽団の活用と発信																
1	群馬交響楽団支援	文化振興課	① 定期演奏会平均入場者数	人	1,570	838	1,640	265,630	・コロナ禍を踏まえ感染防止対策を行いながら各種演奏会を実施。 ・定期演奏会を年間9回開催し、7,540人の鑑賞者があった。 (当初10回の予定であったが、4～7月の4回を中止し、9～11月に各月1回づつ3公演の追加公演を行った。) ・移動・高校音教を28回開催し、31校が鑑賞した。(当初計画では移動・高校音教は合計100回の開催予定であった。) ・東京公演を1回開催し、476人の鑑賞者があった。	5 継続(見直しあり)	地域に根ざした楽団として、子どもたちをはじめ県民にオーケストラ演奏の素晴らしさや感動を伝え、豊かな心を涵養するとともに、日本を代表する楽団として、県内外での演奏会や情報発信を通じて、本県のイメージアップを図る。	県民が質の高いオーケストラ演奏を身近に鑑賞できる環境を整備する。	一流の指揮者、ソリストが出演する定期演奏会の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	□群馬交響楽団関係 ・コロナ禍において、楽団の魅力も県民に発信するには、デジタル配信も重要である。 ・コロナ禍でチケットの払い戻し等の附加業務を滞りなく実施できたことは、運営面の評価につながる。 ・YouTubeで八木節等のコラボレーション動画を発信し、テレビで話題となり、評価できる。
			② 移動音楽教室及び高校音楽教室の鑑賞校数	校	設定なし	31	—					子どもたちに本物のオーケストラ演奏に触れる機会を提供する。	移動音楽教室、高校音楽教室の開催			
			③ 東京公演の鑑賞者数	人	2,100	476	2,150					トップクラスの地方オーケストラとして、活動範囲を県外に広げる。	東京公演の開催			
2	群馬県戦略的文化芸術創造事業	文化振興課	① 参加者数	人	31,560	15,596	80,000	67,574	先端技術や伝統文化の歌舞伎や雅楽、地域の民謡、体感音響システムを組み合わせ、本県の文化資産である世界遺産「富岡製糸場」や群馬交響楽団の価値の向上と新たな客層の開拓を図ることができた。 コロナ禍の中、感染対策を取り事業を実施したため、集客への影響やインバウンドの面で課題が残った。 本事業は本年度で終了予定であったが、関係者との調整・整理により、4年目も継続することができるため、これまでの課題を意識し、最終年度につなげることが求められる。	4 継続	群馬交響楽団、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」及び県内に所在する文化施設等は、それ自体が単体で十分な歴史的・文化的価値をもつものであるが、これら多様な文化資産を組み合わせることで、これまでにない新たな魅力を創造・発信し、交流人口の増加につなげるとともに、郷土に対する県民の愛着及び誇りの醸成を図る。	会場の規模に合わせた参加者数の確保	群馬の特色ある文化の磨き上げと、最新技術などを組み合わせる魅力的な事業を展開する。	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備、5 文化資産の保存及び活用、6 情報発信及び文化交流の促進	C	□上毛かるた関係 ・かるたの意義にふれることなく群馬を揶揄する道具として利用しているテレビ番組が見受けられる。県民にも、かるたの意義がきちんと伝わっていない。 □「すき焼きアクション」関係 ・すき焼きを構成する食材に焦点を当て、群馬の農産物に関する理解を深めるプロジェクトであると考えられる。すき焼きを構成する食材を通じ、群馬にどんな農産物があるか理解を深める取り組みが必要。食文化を育てるという観点から、検討が必要。 ・県内の定着している農作物を使って、すき焼きという形で新しい文化を形成していくということについて、登録無形文化財登録等も含めて検討していく必要がある。
			② 参加者数(外国人)	人	1,550	0	3,900					事業の県内外への情報発信だけでなく、県内各地への誘客を通じて波及的な経済活性化を目指す。	国内外から県してもらい、各事業について有効な情報発信を行い、誘客につながる広報を行う。			
			③ 経済波及効果	千円	503,000	33,000	727,000					地域住民や地域の芸・産学官と連携、協働し、持続的な文化経済活動の実現を目指す。	コンテンツづくりをとおして、将来にわたり持続的に各分野が協働できる枠組みづくりを行う。			
(2) 「上毛かるた」の活用と発信																
3	上毛かるた活用事業	文化振興課	① 上毛かるたの販売冊数	冊	19,000	10,737	—	13,166	・「上毛かるた」の発行・販売、「英語版上毛かるた」の販売、『上毛かるた』で見つける群馬のすがた(副読本)』及び『上毛かるた』ゆかりの地文化めぐり(ガイドマップ)の販売を行った。【英語版:1,371部、副読本:684冊、ガイドマップ:382冊】また、上毛かるたの著作権利用申請について許諾を行った。 ・上毛かるた競技県大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止した。 ・少子化が進む中、上毛かるた等の販売方法に工夫が必要である。	4 継続	上毛かるたを通じて、歴史と先人たちの思いを子どもたちをはじめ広く県民に知ってもらい、その活用を図ることにより、郷土への愛着や群馬の歴史や文化に対する誇りを醸成する。	上毛かるたをいつでも入手できる。	上毛かるたの発行、販売	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	□「すき焼きアクション」関係 ・すき焼きを構成する食材に焦点を当て、群馬の農産物に関する理解を深める取り組みが必要。食文化を育てるという観点から、検討が必要。 ・県内の定着している農作物を使って、すき焼きという形で新しい文化を形成していくということについて、登録無形文化財登録等も含めて検討していく必要がある。
			② 上毛かるた副読本及びガイドマップ販売冊数	冊	設定なし	1,066	—					上毛かるたの内容を理解する。	上毛かるたに込められた史跡や人物などについて再認識を促す副読本及びガイドマップの発行、販売			
			③ 上毛かるた利用許諾件数	件	(2022) 150	111	(2022) 150					上毛かるたを活用することができる。	上毛かるたの利用許諾			
(3) 群馬の食文化の活用と発信／群馬の温泉文化の活用と発信																
4	群馬の魅力発信	メディアプロモーション課	① フェイスブック記事「いいね！」数	件	—	—	—	—	令和元年度をもって事業終了	1 廃止・休止・終了	本県の郷土食である「おっきりこみ」を通じて、本県の魅力を発信しイメージアップを図る。	おっきりこみに関する情報発信の強化	おっきりこみプロジェクト公式フェイスブックの発信	4 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成	C	□「温泉文化」関係 ・県民が温泉文化の意味を理解することが、盛り上がりにつながる。 ・無形文化遺産登録を意識した取り組みを継続してほしい。 ・無形文化遺産登録を考えた場合、県内の伝統的な温泉地を巻き込み、登録運動、啓発活動を展開する必要がある。
		ぐんまブランド推進課	② ぐんま・すき焼きアクション賛同企業・団体の登録数	社	設定なし	460	—	0	・教育委員会と連携し、県内公立小中学校、特別支援学校の全468校の学校給食ですき焼きを提供した。 ・今後も、群馬県産農畜産物の強みを明確にしたPR活動やすき焼き等の県産食材による料理を提案する取組などにより、群馬県産農畜産物を買ってみたい、食べてみたいと考える消費者を増加させていく。	5 継続(見直しあり)	すき焼きの食材を全て県産食材でまかなえるすき焼き自給率100%の県として、行政だけではなく、県民と一緒にすき焼きを通じた県産農畜産物のPRすることにより、「ぐんまのすき焼き」の定着による県産農畜産物の魅力の理解を図る。	ぐんま・すき焼きアクション(群馬県産農畜産物の魅力)の理解	ぐんま・すき焼きアクション賛同企業・団体の募集	6 情報の発信及び文化交流の促進		
		文化振興課	③ 温泉文化に関するシンポジウム等の開催	回	1	1	1	589	温泉文化に対する価値や魅力を伝えるシンポジウムを開催。コロナ禍のため無観客として実施し、その内容を動画で配信した。日本固有の文化としての認知度を高めるため、より多くの県民に周知していく必要がある。	4 継続	古くから受け継がれてきた湯治の歴史や祭りなど、温泉文化を魅力的な観光資源として活用するとともに、その価値を県内外へ発信する。	・温泉文化に対する認知度が高まる。 ・多くの県民が温泉文化の世界的な価値や魅力についての理解を深める。	・各種広報媒体を活用した県内外への周知 ・シンポジウムや講演会の開催	5 文化資産の保存及び活用		

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
02 東国文化の魅力発信																
(1) 東国文化の魅力発信																
5	東国文化周知事業	歴史文化遺産室	① 中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合	%	100.0	91.1	100.0	57,208	古墳や埴輪の魅力伝える動画の公開、中学1年生向けの「東国文化副読本」の配布、「HANI-本」の販売、観光部局と連携した歴史文化遺産ツアー造成等を行った。また、文化観光推進法に基づき、「群馬県立歴史博物館イノベーション文化観光拠点計画」が国の認定を受け、県立歴史博物館を拠点に、「埴輪」と「榛名山噴火関連遺跡」を文化観光コンテンツとして活用し、VRやARなどのデジタル技術を活用した充実した展示や展示解説の多言語化などを進めた。	4 継続	東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳大国である本県が誇る歴史文化遺産についての周知を進め、再認識を促すとともに、観光振興やイメージアップ等での活用を図る。	多くの県民が本県の歴史文化遺産への理解を深める。	中学校での「東国文化副読本」活用による学習支援	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備/5 文化資産の保存及び活用/6 情報の発信及び文化交流の促進	C	・行政や学者が意義を述べても、世論は難しい物には背を向ける。大切だが難しい物を、どのようにアピールするかが課題。 ・古墳大国や埴輪は子どもから高齢者まで分かりやすく、県内外に発信していく好材料。 ・難しい物を発信していくには、教育的な工夫がもう少し必要かもしれない。
			② 東国文化の認知度	%	83.3	集計なし	—					古墳や遺跡、歴史系博物館を訪れる機会が増加する。	古墳や遺跡を会場としたイベントの開催			
			③	—	—	—	—					県外在住者が古墳や遺跡への来訪を目的に来県する。	観光DMOと連携した誘客促進			
(2) 世界の記憶「上野三碑」の魅力発信																
6	「世界の記憶」上野三碑周知事業	歴史文化遺産室	① 上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録	—	—	登録(2017年度)	—	1,000	「上野三碑普及推進会議」(事務局:高崎市)を設置し、上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうため、講演会の開催の他、様々な周知活動を実施した。	4 継続	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の価値や魅力の周知を進め、観光振興やイメージアップ等での活用を図る。	県外の上野三碑の認知度が高まる。	各種広報媒体を活用した県内外への周知	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備/5 文化資産の保存及び活用/6 情報の発信及び文化交流の促進	C	・教育的な取組は、アウトカムがすぐに出て来ないが、理念を持って進める必要があり、息長く取り組む姿勢は評価できる。 ・長期間にわたって学校で教えることが、いずれ大きな成果を生む。
			② 上野三碑一般公開来場者数	人	800	0	800					上野三碑を訪れる機会が増加する。	県内歴史文化遺産と連携したスタンプラリーの実施			
			③	—	—	—	—					多くの県民が上野三碑の世界的な価値や魅力についての理解を深める。	シンポジウムや講演会の開催			
(3) 「偲ぶ毛の国」群馬の魅力発信																
7	史跡上野国分寺跡整備	文化財保護課	① 報告書等の作成	—	調査報告書作成	調査報告書作成	—	627	・H30・31年度に実施した追加の発掘調査について報告書を刊行した。	2 縮小・一部廃止・統合	本県を代表する史跡である上野国分寺跡について、発掘調査のデータを元に、わかりやすい整備を行い、歴史的価値を磨き上げ、全国に情報発信してその価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興にもつなげる。	わかりやすい史跡整備を、計画的に実施する。	予算を計画的に確保する。	5 文化資産の保存及び活用		・プロジェクト「東国文化の魅力発信」は、「5 東国文化周知事業」「8 文化財保存事業費補助特別枠」など、この時期でも様々な活動が展開しており、評価できる。 ・価値観が多様化し、昔のように国民全員が知っているということは、ほぼない。色々な価値観があり、それが細分化している。
			②	—	—	—	—					歴史的価値を磨き上げるため、発掘調査を実施して、歴史的根拠を明確にする。	調査報告書を作成し、歴史的価値を明確にする。			
			③	—	—	—	—					史跡の価値を内外に情報発信し、観光振興を図る。	発掘調査現地説明会や講演会を実施して、歴史的価値の普及啓発に努める。			
8	文化財保存事業費補助特別枠	文化財保護課	① 補助事業件数	件	14	23	16	44,414	国指定文化財補助:23件	4 継続	全国に誇りうる国指定文化財の歴史的価値を磨き上げ、その価値と魅力を情報発信し、群馬のイメージアップを図るとともに、地域作り、観光振興にもつなげていく。	国指定文化財を良好な状態で保存し、活用を図るため、所有者(市町村・法人・個人)が実施する保存修理等の事業を補助する。	予算を計画的に確保する。	5 文化資産の保存及び活用		・埴輪や古墳の関係者の中では、群馬は断トツのブランド。保渡田古墳は成功例としての研究対象になっており、どんなマネジメント(ボランティア活用・お祭りの開催)をしているかを含め、注目を集めている。
			②	—	—	—	—					文化財の保存・修理・整備事業に積極的に補助するとともに、修理・整備方法等について指導助言を行う。	計画的な修理・整備事業が可能となるよう、文化庁や地元市町村、所有者等としっかり連携する。			
9	古墳・金井東裏遺跡情報発信事業	文化財保護課	① 冊子の累計販売数 a:群馬県古墳総覧 b:ぐんま古墳探訪	冊	a:1,350 b:3,500	a:1,340 b:3,581	—	275	スマートフォン用アプリ「古墳探訪」を運営管理。平成29年に刊行した『群馬県古墳総覧』、『ぐんま古墳探訪』両冊子を継続して委託販売した。教員向けの埋蔵文化財専門講座において『古墳学習プログラム』の活用についての講義を行った。	2 縮小・一部廃止・統合	学校教育への働きかけや、展示会や冊子等で古代東国の文化的中心であった群馬の歴史や文化の価値を再認識し、郷土に対する誇りの形成や、群馬県の知名度向上につなげる。	群馬の古墳の価値を理解してもらう。	群馬県古墳総覧・ぐんま古墳探訪を発行、販売	4 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成 6 情報の発信及び文化交流の促進	B	
			②	—	—	—	—					群馬の古墳を来訪してもらう。	スマートフォンアプリを公開・運営。			
			③	—	—	—	—					古墳学習を取り入れた小学校授業を支援する。	古墳学習プログラムを作成し、県内小学校に配布する。			

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シートー覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見			
	10 観音山古墳保護管理運営	文化財保護課	① 見学者数	人	15,000	12,644	15,000	4,329	歴史博物館と連携して、見学者の増加を図っていく必要がある。関越道からのアクセスがスムーズであり、東京等県外からの小学校の途中見学地としての利用が見込まれる。観音山古墳出土品の国宝指定を契機に、情報発信に力を入れていく。	4 継続	史跡観音山古墳の歴史的価値を学校教育や生涯学習等を通して県民に認識してもらい、郷土に対する誇りや愛着の育成を図る。また、県外にも情報発信し、価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興につなげる。	史跡の環境整備・維持管理等を適切に実施する。	予算を適切に確保する。	5 文化資産の保存及び活用					
			②	-	-	-													
	11 上野国分寺跡保護管理運営	文化財保護課	① 見学者数	人	10,000	2,015	10,000	8,245	・国分寺歴史講座の開催や国分寺まつり等、地域と連携しながら広報・普及活動を実施した結果、近年見学者数が増加傾向にあったが、コロナ禍で大幅減少となった。 ・郷土学習・生涯学習の場としてしっかり情報発信を継続し、環境整備や維持管理についても地元協力をいただきながら、更なる見学者数の増加に努める。	4 継続	上野国分寺跡の歴史的価値を学校教育や生涯学習等を通して県民に認識してもらい、郷土に対する誇りや愛着の育成を図る。また、県外にも情報発信し、価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興につなげる。	史跡の環境整備・維持管理等を適切に実施する。	予算を適切に確保する。				5 文化資産の保存及び活用		
			②	-	-	-													
			③	-	-	-													

03 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保存と活用

(1) 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保存と活用/日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」/ぐんま絹遺産の保存と活用

12 世界遺産・ぐんま絹遺産の継承	歴史文化遺産室	① 世界遺産構成資産を複数訪れたことのある県民の割合	%	45	集計なし	95,133	文化振興課では、世界遺産を将来の世代に確実に引き継ぐため、構成資産で行われた保存修理に対し事業費を補助した。6月1日には世界遺産センターを開所し、世界遺産の各資産へのゲートウェイとして、総合的な情報発信や教育普及、調査研究などに取り組んだ。	4 継続	世界遺産やぐんま絹遺産の保存整備を進め、その価値を発信し、活用と継承への意識醸成を図る。	世界遺産構成資産・ぐんま絹遺産の価値を知り、愛着を持つ。	世界遺産・ぐんま絹遺産の現地を訪れる。	5 文化資産の保存及び活用	C	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産登録からまだ7年。富岡製糸場がなぜ世界遺産なのかについては、わかりにくい面もあるが、伝道師教会などで啓発していただいております。 ・富岡製糸場は知られているが、その他の構成資産の認知度が低い。また、アクセス面も課題。 ・世界遺産のポイントは、放っておくと無くなってしまいが守るべき大切なものであること。着実に継承していくことが大切。 ・世界遺産は、イコール集客が重要ではないが、維持のために予算を確保する必要がある。富岡製糸場も予算が厳しい状況であるが、どう認知度を上げていくか考える必要がある。
		② 世界遺産センターの来場者数	人	設定なし	17,145									
13 世界遺産・ぐんま絹遺産の普及啓発等	歴史文化遺産室	① ぐんま絹遺産の認知度	%	65	集計なし	4 継続	11,908	文化振興課では、民間企業等と連携したイベントはコロナのため中止となったが、「絹の国ぐんま」をテーマとしたフォトコンテストや、絹産業従事者を対象とした聞き取りによる映像資料の作成を行い、絹遺産等への理解促進を図った。世界遺産センターでは、県民団体と連携した学校キャラバンを実施し、絹遺産等への理解促進を図った。	4 継続	市町村、民間企業、民間団体と協働した世界遺産・ぐんま絹遺産の活用・発信により、全県に広がるぐんま絹遺産への関心を高め、地域活性化を図る。	世界遺産・ぐんま絹遺産の関心を深め、イベント等に参加する。	世界遺産・ぐんま絹遺産に係る民間企業・団体と連携した普及イベント開催、民間団体の活動支援等を行う。	6 情報の発信及び文化交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・入場料1,000円は高いと感じる。例えば桜の季節など、県民向けに無料期間を設け、見てもらうような機会があると良い。

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
04 県民芸術祭の充実と展開																
(1)次代を担う人材の発掘・育成／メディア芸術の充実と展開／県民芸術祭の充実と展開																
14	県民芸術祭の開催	文化振興課	① 県民芸術祭及び市町村等主催の各種文化行事への参加者	人	430,000	41,442	440,000	24,838	コロナ禍ではあったが、県民芸術祭への参加、協賛への参加事業数はわずかな減少に留まった。しかし実際にイベントを開催できた団体は、29団体でイベント数自体が少なくなったため、参加者数は大きく減少した。 ・事業団において、文化団体に対し、コロナ対策について実践指導したり、コロナ対策の備品等の貸し出しを行った。 ・県から事業団への委託事業については、リアル開催からWeb配信に切り替え事業を行ったものもあり、開催方法を工夫して事業実施した。	5 継続(見直しあり)	優れた文化芸術鑑賞の機会を提供するとともに、県民参加による文化芸術の制作事業等を通して、本県文化の担い手育成や子どもたちの豊かな心を育み、併せて個性豊かな新しい県民文化の育成・創造を目指す。	県民芸術祭及び市町村等主催の各種文化行事への参加者数の増加	次世代の担い手である子どもたちが、文化芸術活動に親しむきっかけづくりを行う。また、県民が日頃の創作活動の成果を発表する機会の提供	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	・コロナの問題だけでなくDX化は進む。配信でも十分に意義を見いだせるような伝え方の工夫や、感性を育てるための方法を考える必要がある。Web配信と対面では雰囲気の違いが全く違う。制約された条件下で、イベントを作り出すテクニックやノウハウを構築していけると良い。 ・デジタルでの鑑賞は人によって反応は分かれるが、情報の発信・反応ともリアルタイムでわかるため、マーケティングツールとしての可能性は高い。 ・コンテンツ配信は、著作権をはじめとする権利関係が大変。また、完成度が高くないと見てもらえない等の難しさもある。 ・ネット配信に慣れていない文化団体に対し、ネット配信での見せ方の工夫・テクニックについて、レクチャーできる仕組みがあると良い。
			② 県民芸術祭参加者数	人	208,000	37,575	212,000					県民芸術祭のすそ野を広げ、充実を図る。	新たな創造活動を促す取組を推進する。			
05 県立文化施設等の発信力強化																
(1)県立美術館・博物館																
15	近代美術館	文化振興課	① 入館者数	人	100,000	20,878	100,000	175,602	・展示事業では、「catch the eyes-目から心へ」、「絵画のミカタ」、「佐賀町エキジビット・スペース1983-2000-現代美術の定点観測-」の3本の企画展示を開催し、公募展「群馬青年ビエンナーレ」の翌年度への延期を補うべくコレクション展示を充実した内容で開催した。 ・教育普及事業では、34の学校団体に対応するとともに、こどもアートツアーを1回、こども+大人+夏の美術館を持ち帰りワークショップとし、美術館アートまつりは参加者数を制限するなど、規模を縮小して実施した。 ・フェイスブック、ツイッター、ホームページをはじめ、美術館ニュースの発行などにより情報発信を行った。 ・将来の作品収集や企画展示につなげるため、調査研究を行った。 ・引き続き、展示・教育普及事業等の質の向上、来館者数の維持、来館者満足度の水準確保に努める必要がある。	4 継続	所蔵している本県ゆかりの作家たちの作品、国内外の近・現代美術、日本画などのコレクション展示や、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展、若い作家のための公募展の開催、作品解説・講演会、子供向けワークショップをはじめとした教育普及事業など、様々な活動により、県的美術振興を推進する。	企画展の質の向上及び入館者数の維持	様々な地域と時代の美術に触れる魅力的な企画展・メリハリのあるコレクション展示の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備		・コロナ禍で来館者が減少する中、各館とも知恵を絞り工夫して取り組んでいる。 ・予約制も定着し、ゆっくり確実に見ることができるようになったと感じている。 ・コロナで困っている人に寄り添える、心が救済されるような企画が各館で考えられると良い。 ・今後コロナがどのようになっているか分からないが、閉館しない工夫をお願いしたい。 ・近代美術館の『絵画のミカタ』展については、内容が大変充実していた。
			② 教育普及事業参加者数	人	12,000	3,922	12,000					教育普及事業の質の向上及び参加者数の維持	美術の楽しさを感じる普及事業の充実・学校教育との連携強化			
			③ 来館者満足度	%	90	94	90					来館者の満足度の水準確保	調査研究の成果を活かした展示・教育普及をはじめとする各種事業の実施			

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
16 館林美術館	文化振興課	① 入館者数	人	55,000	37,305	55,000	163,792	安野光雅「風景と絵本の世界」展は、コロナ禍にもかかわらず、多くの来館者があり、求められた展覧会であることを実感することができた。教育普及活動についても、対策を講じて開催した。 「竹久夢二の美人画とモダンデザイン」では、群馬ならではの構成で反響を呼んだ。コロナ禍にもかかわらず、車椅子を押して美術鑑賞をする親子や、マスクとフェイスシールドをつけてイベントを手助けするボランティアの姿に接し、参加者数では測ることができない、美術館の存在意義を感じることができた。 今後もコロナ禍が続き、来館者・参加者人数を制限しなければならないため、評価の尺度・指標について再検討が必要となっている。	4 継続	東毛地域において、より多くの県民に美術作品鑑賞の機会を提供し、美術振興をより一層推進する。	年間入館者数の向上	質と内容の充実を備えた魅力的な企画展の開催、また民間企業との共催や巡回展の誘致	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	B	・歴史博物館の綿貫観音山の展示については、国宝指定のタイミングとも合わせて実施でき、内容も非常に充実していた。 ・歴史博物館のWebの試みについては、リアルが厳しい状況になった場合に、来場したい方の興味や関心をつなぐ試みで、大切だと感じた。	
		② 参加者数(「上記①」の内数)	人	6,000	2,409	6,000					教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携及び地域連携の強化				
		③ 入館者満足度	%	80.0	99.0	80.0					将来の企画展示に結びつく調査研究の実施による入館者満足度の向上	前年度までの調査研究の成果を活かした企画展示の開催による入館者満足度の水準確保				
17 歴史博物館	文化振興課	① 入館者数	人	100,000	58,828	100,000	123,719	今年度は、コロナ禍の中、外部資金を積極的に活用しながら2回の企画展と2回の特別収蔵品展、3回のテーマ展示を実施した。特に、当館保管の「綿貫観音山古墳出土品」の国宝化を記念した企画展では、リニューアル以降、観覧料収入最高額を実現した。また、tulunos配信など、新しい生活様式に対応した事業形態を工夫し、事業内容の充実を図った。2021年度も、話題性や魅力ある情報発信を実施していきたい。	5 継続(見直しあり)	群馬県地域の歴史の変遷と発展に関する資料を収集し、保管し、展示して、県民の利用に供し、その教養・調査研究に資するために必要な事業を行い、もって、教育・学術及び文化の発展に寄与する。	入館者数の向上	民間企業との共催や巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	・土屋文明記念館の事業で、小中学校に短歌の先生を派遣する事業があるが、子どもたちにとって素晴らしい体験である。将来の芽につながると思う。 ・群馬で活躍している若手の芸術家やアーティストの思いを特集した企画や、作品の制作風景を配信すると、県民が応援してくれるのではないかと。 ・県のtulunosの動画配信のコンテンツが増加・蓄積され、多角的に使われるようになると、可能性が広がる。整理して見せていく必要がある。		
		② 教育普及事業参加者数	人	30,000	20,305	30,000					教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携の強化				
		③ 来館者満足度	%	95	99	95					来館者満足度の向上	調査研究の成果を活かした展示の実施による入館者満足度の水準確保				
18 自然史博物館	文化振興課	① 入館者数	人	250,000	105,397	250,000	268,871	年3回の企画展を計画したが、新型コロナウイルスの感染予防のため令和2年3月から6月まで臨時休館した。春の企画展を秋まで延長し、夏・秋の企画展を延期した。6月から事前予約制による定員制を導入したこともあり、来館者は目標を大きく下回った。 今後、感染予防策を徹底し、新しい生活様式においても、安心・安全な博物館として入館者を受け入れていきたい。普及事業等においてもDXを活用した安全なメニューなどの開発を進めたい。年3回の企画展を計画したが、新型コロナウイルスの感染予防のため令和2年3月から臨時休館した。2月までは昨年度並みの入館者数を確保することが出来た。 今後、開館に向け感染予防策を徹底し、安心・安全な博物館として入館者を受け入れていきたい。普及事業等においても同じく安全なメニューの開発を進めたい。	3 拡充	来館者が参加体験をとおして楽しみながら自然を愛する心を育て、人と自然との関わりを理解し自然に親しむきっかけとなる。	入館者数の向上	民間企業との共催や巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	・コロナ禍でも学習できるように、文化施設も小学生向けの動画制作をしてもいいのではないかと。 ・コロナ禍で、美術館・博物館に気軽に足を運べない方もいるので、tulunosを活用して積極的に発信してほしい。		
		② 教育普及事業参加者数	人	55,000	22,992	55,000					教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携の強化				
		③ 来館者満足度	%	95	95	95					来館者満足度の向上	調査研究の成果を活かした展示の実施による入館者満足度の水準確保				
19 土屋文明記念文学館	文化振興課	① 入館者数	人	35,000	8,193	35,000	58,932	・第108～110回企画展と特別展(年間計4回)を開催した。 ・特に、第109回土屋文明生誕130年・没後30年記念展「若き日の土屋文明」では、現代歌人27名が好きな土屋文明の短歌を選んでその魅力を紹介した企画が好評だった。 ・新型コロナウイルス感染症予防のため、4月から5月下旬を臨時休館とし、開館後、講演等の募集を通常の半分にするなど三密回避に務めた。 ・今後も、来館者の期待に沿った展示を実施していく。	4 継続	本県にゆかりのある文学者及び文学の魅力県内外に発信し、文学に親しんでいただけるよう、毎年4回の魅力ある企画展を開催するとともに、記念講演等、様々な関連イベントを実施している。	入館者数の向上	民間企業との共催や巡回展の誘致も含めたメリハリのある魅力的な企画展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	・配信は著作権などの権利が難しい場面もあるので、プロの手を借りることも必要ではないかと。		
		② 教育普及事業参加者数	人	19,000	16,647	19,000					教育普及参加者数の向上	教育普及事業の充実・学校教育連携の強化				
		③ 来館者満足度	%	95	95	95					来館者満足度の向上	調査研究の成果を活かした展示の実施による入館者満足度の水準確保				

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
	20 県民会館運営	文化振興課	① 施設利用者数	人	300,000	34,284	—	156,967	新型コロナウイルスの影響により年度当初から約2か月の休館を行ったほか、再開後も予約のキャンセルや利用の見合わせが多く、利用者数・稼働率ともに目標値を下回る結果となった。 一方で、利用者満足度は過去最高の数値となっており、感染拡大防止のため施設利用に制約のある中で、指定管理者が努力した結果であると認められる。 「県有施設のあり方見直し」における、前橋市との連携による施設の維持が今後の検討課題である。	4 継続	群馬県民会館は、県民への優れた芸術を鑑賞する機会の提供と個性豊かな群馬の文化づくりをとおして、県民の創造的な文化活動を支援し、群馬県の文化の発展と明るく潤いと活力に満ちた県民生活の実現に寄与するために設置している。また、同施設の管理業務を効果的かつ効率的に行うため、指定管理者制度を導入している。	施設利用者数の増加	各種広告媒体を利用した広報の実施	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備		
		② 施設稼働率	%	57.0	25.0	—	施設稼働率の向上					プロモーター等に対する利用促進の働きかけ				
		③ 利用者満足度 (「やや良い」以上の割合)	%	70.0	91.6	—	利用者満足度の向上					利用者満足度調査の実施、結果の分析及び施設管理や事業への反映				
06 文化を活かした地域づくり																
(1) 伝統文化を活かした地域づくり																
	21 伝統文化継承事業	文化振興課	① 「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の採択件数	件	40	22	40	4,522	・伝統文化継承活動を行っている県内団体に対して支援した。 ・28件の応募があり、22件を補助事業として採択(新規採択は13件)。補助金確定額は3,403千円。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のための消耗品を補助対象に加えた。 ・DVD作成など、三密回避に活用できる事業にも補助金を利用するため、より幅広い周知を行う必要がある。	4 継続	各地域固有の伝統文化(民謡・民舞、神楽、歌舞伎、人形芝居、祭り囃子その他の伝統芸能及び地域の年中行事等)の適切な保存、継承及び発展を図り、伝統文化を通じて住民同士が交流を深めることで、地域の活性化につなげる。	担い手の高齢化や道具の老朽化等、活動の継続を難しくしている環境の改善	「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の実施	5 文化資産の保存及び活用	C	・地域の伝統文化は県民に身近で、取り組みやすい。 ・伝統文化に関しては、学校の地域活動として子どもたちが触れる機会ができるとうい。 ・高齢者だけでなく、各世代の人が集う環境を積極的に作れば、人口減少社会と高齢化の問題の核になり得る。
		② 県内伝統文化の継承件数	件	620	571	620	県内伝統文化の継承件数の維持					伝統文化継承モデル事業の開催				
		③														
(2) 「群馬の文化」を活かした地域づくり																
	22 文化づくり支援事業	文化振興課	① 「群馬の文化」支援事業補助金採択件数	件	20	7	20	1,899	・「群馬の文化」支援事業補助金について、1次募集6件、2次募集5件の応募があり、評価委員会の審査を経て8件(文化力向上事業7件、文化資産発掘活用事業1件)を採択した。 ・コロナの影響で、文化活動自体が自粛傾向にあり、応募件数が少なかったため、2次募集を実施。コロナ禍での文化活動を支援するため、募集チラシに、新型コロナウイルス感染症対策の消耗品購入にも利用できることを記載し、募集を行った。 ・事業実施に伴う、コロナ対応等についての相談に対応するなど、事業の進捗については、例年以上に密に情報交換を行った。	4 継続	多様な創造活動への支援を通じて、文化を活かした個性豊かで活力ある地域づくり、文化力の向上、次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実、地域の文化資産を活かした観光・地域振興	文化団体等が実施する本県の文化力の向上に資する新たな取組や事業を拡大する取組、子どもたちが多彩な優れた芸術に親しむ機会を充実させる取組、地域の文化資産を活かした観光・地域振興につながる取組の支援	「群馬の文化」支援事業補助金による支援	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備／ 3 県民の文化活動への支援体制の充実／ 4 文化の継承及び発展を担う人材・団体の育成／ 5 文化資産の保存及び活用	C	・伝統芸能は、高齢化や農村部での実施等、色々な要素が人材不足に拍車をかけており、お金より人と言われている。 ・コロナ対策に係る部分も補助対象としており、この時期のサポートはしてもらったと思う。
		② 「群馬の文化」支援事業補助金交付額	千円	設定なし	1,899	—										
	23 魅せる群馬の文化応援事業	文化振興課	① 魅せる群馬の文化応援事業補助金交付件数	件	—	—	—		令和元年度をもって事業終了	1 廃止・休止・終了	地域の文化資産を活用して本県特有の文化の魅力を県内外に発信し、交流人口の拡大を図る。	地域の文化を磨き上げ、県内外に本県特有の文化の魅力を発信し、人を呼び込み、レガシーと成り得るものであり、かつ、継続性がある大規模な事業展開が見込める事業への支援	魅せる群馬の文化応援事業補助金による支援	5 文化資産の保存及び活用		
		② 魅せる群馬の文化応援事業補助金交付額	千円	—	—	—										

魅せる群馬の文化発信プランー第2次群馬県文化振興指針ー2018年度～2022年度 評価シート一覧

プロジェクト名	主な事業	所属	成果(結果)を示す目標・指標	単位	2020目標	2020実績	2021年目標	2020決算額(千円)	2020事業結果	来年度事業評価	事業の目標	事業のアウトカム(成果)	事業のアウトプット(結果)	基本理念	審議会評価	審議会意見
07 文化活動における多様な参画の促進																
(1)障害のある人の参画の促進／高齢者の参画の促進／外国人の参画の促進																
24	障害者週間記念行事／精神障害者社会参加推進事業	障害政策課	① 「障害者作品展」への出品数	点	320	209	320	361	・障害者作品展を令和2年12月4日(金)から12月28日(月)までの25日間の日程でオンラインで開催した。今後はより多くの方に参加いただけるよう周知方法を検討する。 ・こころのふれあいバザー展について、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。	4 継続	障害のある人が文化活動を通じてそれぞれの個性を發揮し、社会への参加や自己実現につなげていける環境づくり	障害のある人に対する県民の理解と認識を深める。	障害者作品展の開催	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	・社会の様々な立場でそれぞれが社会を活性化していく、それが財産であるという視点で施策を考える必要がある。 □障害のある人の参画の促進について ・障害者芸術基本法ができたことで、急速に理解が深まっている。事業が進めやすくなったのではないか。 ・障害者と区分するのではなく、それぞれどのような支援が必要かを考え、個性を尊重することが大切である。
			②					こころのふれあいバザー展の開催					・障害者作品展などの事業は今後も推進すべき。 ・障害者芸術の研究者が問題としているのは、線をひくこと。カテゴライズがその人たちを別扱いすることになる。常に問題提起されながら、解決策が見つからない問題である。			
25	高齢者の文化活動の充実	介護高齢課	① 芸能発表大会来場者数	-	-	-	-	-	第45回群馬県老人クラブ連合会芸能発表大会 中止 【各事業の応募作品数】 ・美術作品: 163 ・短歌: 1,988 ・メッセージコンクール: 2,112	4 継続	ぐんまときめきフェスティバルや群馬県老人クラブ大会といった文化活動等の発表の場を設けることにより、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。	県老人クラブ大会への出場を楽しみのひとつとして、地域での文化活動等を行う。	2 県民が等しく文化を鑑賞・創造等できる環境の整備	C	・国では、厚生労働省と文化庁が連携して障害者芸術の事業をしている。県でも「24障害者週間記念行事」のような項目では、部局を超えて事業提案できるとおもしろい。	
			② ときめきフェスティバル来場者数	人	設定なし	1709	-	-				ときめきフェスティバルへの出場を楽しみのひとつとして、地域での文化活動等を行う。				長寿社会づくり財団や関係団体と連携し、フェスティバルを適切に開催
26	外国人の参画の促進	ぐんま暮らし・外国人活躍推進課	① 医療通訳ボランティア養成件数	件	15	8	15	21,252	・医療通訳ボランティアを養成し、派遣を行った。 ・ぐんま外国人総合相談ワンストップセンターを運営し、外国人県民からの生活相談を受け、また、生活に必要な情報を発信した。(新型コロナウイルス感染症への対応のため、関連情報の多言語支援や土日祝における相談窓口の臨時開所等を実施) ・災害時の外国人県民支援のための訓練を実施した。	5 継続(見直しあり)	外国人住民の自立と社会参画を進めるための環境を整備する	外国人住民の受診環境の整備	6 情報の発信及び文化交流の促進	C	□外国人の参画の促進について ・項目「26外国人の参画の促進」は、文化の評価としては異文化理解や国際交流などの側面を見ていくべきではないか。	
			② 相談件数	件	設定なし	1,768	-					多言語による情報提供及び相談体制の充実				外国人相談窓口設置(多言語インフォメーションセンター)
			③ 災害時多言語支援センター設置運営訓練	件	50	31	50					外国人住民への防災に関する知識の普及及び人材の育成				災害時多言語支援センター設置運営訓練及び災害時通訳ボランティアの養成